

歌数首 : 文苑

著者	秋月, 胤永, 下山, 陸治, 杉山, 富槌, 受樂院, 義春
雑誌名	龍南會雜誌
巻	2 5
ページ	4 7 - 4 8
発行年	1894-03-31
URL	http://hdl.handle.net/2298/4381

劍舞の歌

ほきまつる

けふのうたけの

嬉しさよ

君はしろかね

臣はくろかね

朽はてし

老のこの身は

なにあせん

こゝろのかねう

きみよむくいん

胤 永

鶯花契萬春

下山 陸治

むつれつゝいく代の春かちさるらん

千代田の花にやどる鶯

鶯花契萬春

二首

杉山 富樫

色ふかき花のこすえにきまつゆなり

萬代うたふ鶯の聲

萬代のちさりをこめて花の香に

鳴く鶯のこゑろのどけき

大婚満二十五年祝典を

ほきまつる 二首

全

山賤の身にしあれども大君の

深きめくみをいはひたゝえん

治れる御代のゆくみの昔より

たぐひまれなる榮をろ見る

霞

全

風さえてまた雪どけぬはつ春の

霞むもさむし野つら山きは

庭 梅

全

のさちろくすろたはるれとおほる夜の

吹さくる風の梅か香そする

若 草

全

春雨にもえいてし庭の芝くさは

池の鏡にみどりろむけり

瓶の梅さきそめければ

よめる

全

さしかさす梅の一枝咲きそめて

春きにけりとまられころすれ

馴鶯

視友會員 受樂院義春

我やとは梅のはち園ちかければ

さかぬ日もなき鶯のころ

朝雲雀

全

朝ほらけ雲おはるかにちくひはり

有明の月にころ霞みつゝ

海邊花

全

またつみの浪の春風をるあり

雜報

○叙位 永井書記は今般正八位に叙せらる

○大典奉祝彙報 嗚呼是れ千載の一遇、未曾有の大典、高嶺の鶴、水際の龜、いづれか今日の喜

よ躍らざる、此の盛典を祝する、亦未曾有盛事をかかるべからず、大婚式當日に於ける龍南の盛況大概左の如き先づ

磯邊の櫻さかりあるらむ

花 全

敷嶋の大和ころを色にいてゝ

さくや吉野のやまさくら花

春川 全

ちりてなかるゝ櫻はち

淀む水きはにしからみて

しろたへなせる隅田川

涙間の風もかをるあり

霞中花 全

はるの夕のよし野やま

いまをさかりと櫻はち

かすみの中に咲きたれ

ねほろの月にはふかり